

八幡平市 地域公共交通計画 【概要版】

令和6年3月
八幡平市

市はこれまで、「八幡平市地域公共交通計画（2008年度）」、「八幡平市地域公共交通実施計画（2009年度）」、「八幡平市地域公共交通網形成計画（2015年度）」を策定し、利便性の向上に取り組んできましたが、減便による利便性の低下や担い手不足の問題等は深刻化しています。一方で、賑わいの創出と交流促進によるまちや商業の活性化を目指して都市基盤の整備を進めており、観光分野においても海外に開かれた観光振興が成果を上げつつあります。

これらの状況を踏まえ、現在の「八幡平市地域公共交通網形成計画」の計画更新に合わせて、将来にわたって持続可能な地域公共交通ネットワークの再構築を目指して、「八幡平市地域公共交通計画」を策定しました。

地域公共交通の現状と課題

- 鉄道や路線バス、コミュニティバスの利用者は減少し、経営状況は厳しさが増している。
- 路線バスやコミュニティバス、タクシーが利用しにくい状況が生じている。
- 鉄道や路線バスが減便により、通勤や通学に不便が生じている。
- 商店の閉店などもあり、地区をまたぐ移動ニーズが高まっている。
- 運転免許の保有率は高くなっているが、将来の移動手段に不安を感じている人が多い。
- 外国人来訪者の増加による移動ニーズへの対応が必要である。

計画の基本方針と基本目標

基本方針

だれもが安心して往来し、
まちのにぎわいをつくる公共交通

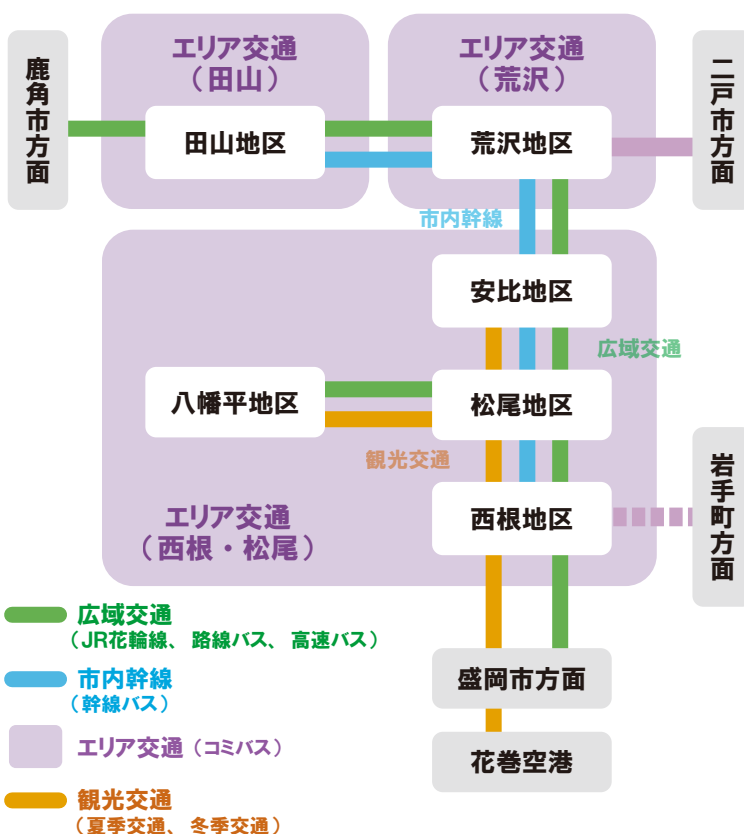
基本目標 1 効率性と利便性を高め、持続性のある地域交通をつくる

基本目標 2 子供からお年寄りまで安心して頼れる地域交通をつくる

基本目標 3 訪れやすく、にぎわいを創出する地域交通をつくる

目指す公共交通ネットワークイメージ

市内と市外を結ぶ「**広域交通**」に、JR花輪線と路線バスに加えて高速バスを位置付けます。また各地区を結ぶ幹線バスに、多様な主体により行われる買い物等ツアーバスも加えて「**市内幹線**」として充実を図ります。コミュニティバスが担っている地域内を面的にカバーする交通は**デマンド型運行**を新たに導入し、「**エリア交通**」を実現します。さらに、ニーズが高まっている外国の来訪者の移動にも対応した「**観光交通**」も充実を図ります。



公共交通ネットワークの目指す姿



目標とそれを達成するための取組

目指すべき公共交通ネットワークの実現に向けて掲げた3つの基本目標の実現に向けて、それぞれ取り組むべき内容を整理しました。実施に当たっては、市や交通事業者だけでなく、関係機関や市民が協力、連携して事業に取り組むことが大切です。

目標 1

効率性と利便性を高め、持続性のある地域交通をつくる

戦略1 路線バスの集約による運行・運営の効率化

取組内容

- 1) 現在5路線運行されている路線バスを2路線（八幡平マウンテンホテル線と平館駅前線）に再編し、輸送量を確保することで地域間幹線系統として国や県の支援を受けながら将来的に安定した運行の維持を実現する。
- 2) 再編によって運行外となる区間【平館駅前 - 南寄木】については、コミュニティバス（デマンド運行型）で対応する。（→戦略2へ）
- 3) 再編によって運行外となる区間【八幡平マウンテンホテル - 松川温泉】については、観光事業者等関係者の連携により来訪者のニーズに対応した移動方法を創出する。（→戦略8へ）



戦略2 コミュニティバスの利用者利便性の向上

取組内容

- 1) **松尾地区** …… 前森路線、大花森路線はデマンド運行への移行を検討する。また、運行範囲も見直し、交通空白地の解消を図る。
- 2) **西根地区** …… 移動ニーズに対応し、運行時刻を見直す。利用状況に応じてデマンド運行への移行も検討していく。
寺田路線、若谷地路線、東大更路線、平笠田頭路線
- 3) **安代地区** …… 受付と配車システムの導入を検討するとともに車両台数の補充を
田山路線、荒沢路線 検討し、デマンド運行の充実を図る。
- 4) 車両の更新に合わせて電気自動車の導入によりゼロカーボンドライブを実現するとともに、乗り降りしやすい車両の導入を進める。
- 5) 利便性の向上に合わせて運賃の見直しを検討し、運行の効率性を高める。



戦略3 鉄道・路線バスの利用促進

取組内容

- 1) 通学定期券購入費補助金を継続する。
- 2) サイクルトレインの実現とサイクリングロードとの連携を進める。
- 3) 市民のマイレール・マイバス意識の醸成を図る。



戦略4 幹線バス等市内幹線の充実

取組内容

- 1) 利用状況やニーズに応じて、幹線バスの経路の見直しやバス停の増設に取り組む。
- 2) 利用状況やニーズに応じて、幹線バスのダイヤ見直しに取り組む。
- 3) 福祉団体など多様な主体による買い物ツアーなどの活動を支援する。



目標 2

子どもからお年寄りまで安心して頼れる地域交通をつくる

戦略5 通勤や通学ができる公共交通の充実

取組内容

- 1) 終電、終バス後の I G R 好摩駅からの帰宅便の運行等により、盛岡からの帰宅に使える交通手段を確保する。
- 2) 鉄道乗車券による路線バス利用を可能とすることで、公共交通で外出できる頻度を高める。



戦略6 クルマがなくても安心しておでかけできる環境づくり

取組内容

- 1) 免許返納時に公共交通利用券を助成する制度を継続する。
- 2) (仮称) 大更駅前顔づくり施設にバス待ち環境を整備する。
- 3) 商業施設や医療施設と連携し、バス待ち環境の整備を進める。
- 4) 公共交通の出前講座や体験乗車会等を積極的に開催する。
- 5) ユニバーサルデザイン (UD) タクシーなど乗り降りしやすい車両の導入を進める。



目標 3

訪れやすく、にぎわいを創出する地域交通をつくる

戦略7 観光二次交通の充実

取組内容

- 1) 広域観光に対応したハイヤー車両の確保等を支援する。
- 2) 高速バスやサービスエリアを活用した交通ネットワーク構築等インバウンドを含めた新たな観光客への既存の交通ネットワークの利用を促進する。



戦略8 来訪者の市内周遊ニーズへの細やかな対応

取組内容

- 1) 安比高原周辺や松川温泉周辺等の交通不便地域における来訪者の移動手段の充実を図る。
- 2) ナイトシャトルバス等まちのにぎわいを創出する交通手段の充実を図る。
- 3) 多様な決済システムの導入を促進する。





計画の数値指標

計画の着実な実施と効果のある取り組みとするために、基本目標に合わせた指標を設定します。八幡平市地域公共交通活性化協議会において公表することとし、数値に基づいた事業の効果的な実施を実現します。

	現状(2022年実績)		目標値(2030年)
数値目標1 公共交通の維持に係る市の負担額	99,151 千円	➡	111,300 千円
数値目標2 公共交通事業の収支率	3.5%	➡	6.5%
数値目標3 公共交通の利用者一人当たりの収支差額	3,308 円/人	➡	2,970 円/人
数値目標4 鉄道の利用者数(大更駅)	182 人	➡	250 人
数値目標5 バスの利用者数	274,270 人	➡	278,500 人
数値目標6 「外出を不便」と感じない人の割合	54%	➡	70%
数値目標7 観光入込数	1,512 千人回	➡	2,400 千人回



計画の期間

本計画は、八幡平市全域を対象として総合計画との調整を図り、**2024年度から2030年度までの7年間**とします。ただし、社会情勢や住民ニーズの変化などに柔軟に対応するため、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。

計画	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	2032 (R14)	2033 (R15)	
八幡平市総合計画	第2次		第3次								
八幡平市 地域公共交通計画 【本計画】	[Red bar]										




計画の実施体制

本計画は、行政、市民代表、交通事業者、道路管理者、交通管理者、学識経験者、関係団体などで構成する「**八幡平市地域公共交通活性化協議会**」において、PDCAサイクルに則って実施します。

なお、推進に当たっては、協議会事務局(八幡平市まちづくり推進課)が中心となって、様々な関係者(機関、団体、企業など)と連携を図って取り組みを実施します。

八幡平市地域公共交通計画 【概要版】

発行 令和6年3月

編集  **八幡平市** Hachimantai City 〒028-7397 岩手県八幡平市野駄 21-170
TEL.0195-74-2111 FAX.0195-74-2102